

報告事項

2025 年度事業報告

I 総括

当会は、「頼りになる建築家、頼りになる JIA」を活動の基本テーマに掲げ、コロナ禍の終焉以来、社会への情報発信の強化と、地域に根ざした公益事業の積極化を柱に、活動の拡充を図ってきました。

同時に、建築設計界の将来を支える若い世代の育成、業界の課題や社会問題への対応、海外交流の活性化、さらに新たな資格認定制度の具体化のための検討も進めています。

[2025 年度の重点施策]

本年度に実施した重点施策の概要は以下の通りです。

1. 建築家の信頼性向上に向けた社会への発信強化

基本テーマ「頼りになる建築家、頼りになる JIA」に沿って、社会に向けた情報発信の拡充に力を入れています。

本年度は、社会に寄り添う建築家の仕事と活動を市民の方々に理解していただくために、SNS などの新たな媒体も活用した情報発信に、前年度に引き続き力を入れました。またオンライン活用によるセミナーやイベント等の開催を通じて、広く社会に対して積極的な情報発信を行いました。

2. 地域に根ざした公益事業の推進

建築に関するイベントやセミナーの開催、被災地の復旧・復興への支援、建築物の保存・再生活動、消費者に対する建築相談をはじめ、地域に根ざした、さまざまな公益事業を支部・地域会を主体に実施しています。

そのほか、本部による表彰事業に加え、地域ごとに主催する数多くの表彰事業を実施したほか、自治体や地域団体への建築や街づくりへの支援を行いました。

また、過年度に甚大な被害を与えた能登半島地震をはじめ、地域の関係団体等と連携した復旧・復興に向けたイベント等の開催等により支援活動を継続しています。

3. 人材の育成と活性化施策の充実

各種教育・育成プログラムの拡充と合わせて、建築に係る人材の育成・活性化を推進しています。特に将来の建築設計界と JIA を支える若手の育成を重視しています。

本年度は、優れた建築物の見学・講習会「フィールドトリップ JIA」の開催に加え、建築家継続職能教育(CPD)プログラムの拡充とともに、多くの方の受講を容易にするセミナー等のオンライン化、アーカイブス化を進めました。

また、学生に会員事務所における実務体験を提供するオープンデスクの実施や、支部、地域会による学生との交流を促進しました。

4.業務の課題や社会問題への対応

建築界は、近年の技術革新や市場の変化への対応、さらに重大な社会問題への取組みが求められています。

本年度は、2025 年 4 月から施行された建築基準法及び建築物省エネ法の改正への対応や、BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)の普及促進、建築分野の中長期的ビジョン検討等のため、国交省等が主催する各種会議への参加のほか、建築設計三団体等が連携して対応しました。

また、建築界においても重要課題である「カーボンニュートラル」実現に向けてオンライン方式のセミナーを開催したほか、建築関係5団体が協力して、一般の方にわかりやすい「脱炭素建築モデル」の作成に取り組んでいます。

5.海外交流の積極化

UIA(国際建築家連合)や ARCASIA(アジア建築家評議会)、海外建築関連団体等とのネットワークの強化とあわせて、海外の情報収集や調査研究活動を実施しています。

本年度は、ARCASIA 大会(開催地:韓国仁川)への参加、全国大会開催にあわせた海外協定締結団体との国際会議開催に加えて、支部・地域会による海外団体との交流を行いました。

6.建築家資格制度のあり方の検討

現行の「建築家資格制度(登録建築家)」に関しては適切な運営を推進するとともに、統括設計者の職能の明確化と社会からの認知向上のため、国際基準にも合致する新たな資格認定制度の創設に向けて日本建築士会連合会と具体的な検討を行っています。

本年度は、資格認定制度のあり方の検討を続け、制度の骨子と今後の進め方に関して、同連合会と協定を締結し、2026 年 3 月には共同記者発表を行いました。

[2025 年度の事業分野別の主な活動]

2025 年度の主な活動を事業分野別にまとめました。なお、本部の委員会・全国会議および各支部の区分による具体的事業活動内容については、別途付属明細として記載しています。

1.建築環境整備事業

1)環境保全活動

建築物や都市の環境保全を目的に普及広報活動を行いました。カーボンニュートラル実現に向けて、一般の方も多く参加するオンライン方式のセミナー「2050 カーボンニュートラル連続セミナー」開催(本年度 3 回開催)、建築関係5団体が連携して「脱炭素建築モデル」の作成に取り組んでいます。

2)まちづくり活動

地域の自然・歴史・文化を評価し、安全に配慮したまちづくりをめざした活動として、自治体からの支援業務の受託やまちづくり団体等への支援活動を実施しました。また、価値ある建築物の保存再生のための「文化財修復塾」による講座を運営しました。

3) 災害対策活動

近年頻発する地震等の災害に対して、引き続き、支部・地域会を中心に地域に密着した災害発生時や復興に関する支援を続けています。特に能登半島における大規模地震発生に対しては、復興への支援活動として、地域の関係団体等と協力してシンポジウム「のとボイス」の開催等を行う体制をとっています。

4) 建築相談活動

建築・増築・リフォームの相談、欠陥住宅問題等のトラブルへの対応をはじめ、一般消費者からの依頼に応じて、支部・地域会に設置した建築相談委員会や建築相談室により、住まいに関するきめ細かな建築相談活動を実施しました。

2. 建築文化育成・交流事業

1) 表彰活動

「JIA日本建築大賞・JIA優秀建築賞」「JIA新人賞」「JIA 25 年賞」「JIA 環境建築賞」の表彰事業を主催しました。受賞作品を収録した JIA 建築年鑑の出版(印刷版および WEB サイト版)を行いました。さらに支部・地域会では、地域の特色を活かしたさまざまな表彰事業や、支部・地域会の主催・連携による「学生卒業設計コンクール」を実施しました。

2) 交流活動

広く社会や建築関係者に対して、建築文化の普及・振興を図ることを目的として、全国大会の開催に加え、支部・地域会主体に、建築文化に関するシンポジウム・セミナーの開催、そして建築文化関連図書の出版協力やパンフレット作成等を実施しました。

3) 国際協力活動

UIA、ARCASIA、さらに海外の建築関連団体が開催する大会や委員会等の会議への参加のほか、国内での海外協定締結団体との国際会議(IPF)の開催、支部等による海外団体との交流も実施しました。本年度の国際活動を報告書にまとめました。

4) 教育・育成活動

学生に対する教育・育成活動として、会員の設計事務所での短期実習を行う「オープンデスク」の実施、会員や建築関係者等に向けた各種講演会・セミナー等の開催といった教育・育成活動を実施しました。また、建築設計業務を志す学生同士の交流活動を支援しました。

3. 建築制度整備事業

1) 継続職能研修(CPD)制度の実施

建築家の社会的責務を果たすために必要な継続職能研修のために、CPD プログラムの認定(本年度の認定プログラム総数 1,648 件)をはじめとする CPD 制度の管理・運営を行いました。さらに、会員サービスの向上、会員の職能の充実をめざして、CPD のプログラムの多様化、オンライン受講可能プログラムを増加しました(2026 年 3 月末時点コンテンツ数 64 件)。

2) 建築家資格制度

建築家資格制度に関して、「登録建築家」の認定業務、制度普及のための活動等を実施

しました(2026 年 4 月 1 日現在の建築家資格制度登録者数見込み 1,236 人)。今後の資格制度のあり方等について検討を行いました。

3) 建築関連の法・制度の調査研究・提言

改定された設計業務報酬基準(告示第 8 号)の課題を整理しました。また、国交省、東京都、神奈川県及び建築設計三団体で構成する「公共建築設計懇談会」に参加し、公共建築の質の向上のための提案を実施しました。また、BIM の普及促進のため、建築設計三団体が連携して、国交省の施策への支援を実施しました。

II 2025 年度通常総会

2025 年度通常総会を 6 月 24 日午後 2 時 30 分より 4 時 00 分まで、建築家会館1階大ホール(東京)にて開催しました。正会員数 3,088 名の内、書面表決者 791 名、委任状提出者 1,380 名を含む出席者総数 2,211 名により総会が成立し、議長に小西彦仁会員を選出した後、下記議案が審議され、いずれも原案通りに承認されました。

[2025 年度総会議案]

第 1 号議案 2024 年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)、財産目録の承認の件

第 2 号議案 協力会員の入会金・会費一部改正の件

第 3 号議案 理事及び監事の選任の件

第 4 号議案 名誉会員選任の件

第 5 号議案 定款の一部変更の件

第 6 号議案 役員の報酬等及び費用に関する規程一部改正の件

III 2025 年度理事会

2025 年度理事会を、対面で 4 回、zoom によるオンラインで 3 回、対面・オンライン併用で 1 回、および書面審議 3 回の合計 11 回開催しました。各理事会の議事は以下の通りです。

[2025 年度理事会議事]

1) 第 325 回理事会(オンライン)(4 月 15 日開催)

- ①入退会者について
- ②委員会委員等就任について
- ③正会員以外から選任する役員(理事)候補者の選任について
- ④活動及び業務執行状況報告

2) 第 326 回理事会(書面)(4 月 22 日開催)

- ①JIANet 利用規約案について
- ②個人情報保護規程改定案について
- ③個人データ管理台帳改定案について

3) 第 327 回理事会(対面)(5 月 27 日開催)

- ①入退会者について
- ②2025 年度通常総会開催及び議案について
 - ・2024 年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)、財産目録について
 - ・協力会員の入会金・会費一部改正について
 - ・理事及び監事の選任について
 - ・名誉会員選任について
 - ・定款の一部変更について
 - ・役員の報酬等及び費用に関する規程一部改正について
 - ・2024 年度事業報告、2025 年度事業計画及び予算(報告)について
- ③特定費用準備資金積立資産および資産取得資金積立資産の取崩しについて
- ④2025 年度委員会構成案について
- ⑤JIA 文化財修復塾名称変更について

⑥活動及び業務執行状況報告

4)第 328 回理事会(対面)(6 月 24 日開催)

- ①専務理事及び支部長選任について
- ②入退会者について
- ③会員資格喪失者について
- ④ワーキンググループ設置および委員会委員等について
- ⑤活動及び業務執行状況報告

5)第 329 回理事会(書面)(7 月 23 日開催)

- ①入退会者について

6)第 330 回理事会(書面)(8 月 4 日開催)

- ①旧香川県立体育館(通称「船の体育館」)の保存と活用に関する要望書提出について

7)第 331 回理事会(対面)(8 月 22 日開催)

- ①入会者について
- ②退会届等書式変更について
- ③委員会委員等就任について
- ④役員候補者選挙規程改正案および正会員以外から選任する役員候補者の選任等に関する規程改正案について
- ⑤就業規程改正案およびハラスメント防止規程類について
- ⑥建築家資格制度規則・細則・審査要項改定案について
- ⑦新資格制度の構築を目指した活動方針について
- ⑧活動及び業務執行状況報告

8)第 332 回理事会(オンライン)(10 月 10 日開催)

- ①入会者について
- ②委員会委員就任について
- ③設計三会 建築士および建築士事務所に係る法制等の改善に関する提案(案)について
- ④活動及び業務執行状況報告

9)第 333 回理事会(対面)(12 月 10 日開催)

- ①入会者について
- ②災害時支援活動規程改定案について
- ③BCP(業務継続計画)案について
- ④新資格制度二会基本合意書案および今後の進め方について
- ⑤「JIA 公益事業活動助成」採択結果について
- ⑥活動及び業務執行状況報告

10)第 334 回理事会(オンライン)(2 月 13 日開催)

- ①入会者について
- ②活動及び業務執行状況報告

11)第 335 回理事会(対面・オンライン併用)(3 月 11 日開催)

- ①入会者について
- ②委員会委員就任について

- ③フェロー会員について
- ④特定費用準備資金等取扱規程の廃止および公益充実資金取扱規程制定について
- ⑤2026 年度事業計画(案)および予算(案)について
- ⑥一般社団法人 BIM 標準情報活用協会 (BIMSIA) の団体会員入会について
- ⑦活動及び業務執行状況報告

IV 建築家認定評議会等

1. 建築家認定評議会

建築家認定評議会を計 2 回、開催しました。

議事は以下のとおりです。

- 1) 第 1 回(臨時)建築家認定評議会(書面審議、7/3 発送、7/29 議案差替、8/ 4 回答〆切)
 - ・建築家資格制度規則の一部改定の承認
 - ・建築家資格制度細則の一部改定の承認
 - ・審査要項の一部改定の承認
 - ・2024 年度 第 3 回(定期)建築家認定評議会の議事録の承認
- 2) 第 2 回(定期)建築家認定評議会(2025 年 3 月 27 日)
 - ・登録建築家の認定(審議)、更新(今年度は報告のみ)、再登録(可否審議)
新規登録 申請者 17 名(非会員 4 名) 合格者 16 名(非会員 3 名)
更新 申請者 384 名 合格者 384 名 (更新率 79.8%)
再登録 申請者 32 名 合格者 31 名 未入金による取下げ 1 名
登録総数は 1,235 名となり、昨年度より 54 名の減少(前年度から 4.2%減少)となりました。
正会員に占める登録建築家の割合は 36.2%(前年から 0.1%減少)となりました。
 - ・ポートフォリオ上の「建築に対する考え方」の修正要望への対処の審議
 - ・JIA と建築士会連合会の基本合意に基づく新認定制度の動きの報告
 - ・北海道支部実務委員会での意見交換の紹介
 - ・建築家資格制度についての意見交換

2. 本部建築家資格制度実務委員会

本部建築家資格制度実務委員会は計 5 回(6/2、7/25、10/10、2/3、3/11)を職能・資格制度委員会との合同で開催、また定期認定評議会(3/27)に委員会全体で参加しました。メールでの意見聴取・稟議決裁は計 9 回、実施しています。主な作業は以下のとおりです。

- ・建築家資格制度に関する細則、登録建築家審査要項、それぞれ改定案の作成と、これらの認定評議会および理事会への上程
- ・資格制度のホームページに掲載する「登録申請説明書」および「申請入力の手引き」の細部改定
- ・新規登録対象の JIA 会員、更新対象者全員、昨年度未更新による再登録対象者、これらへの申請呼掛けならびに説明メールの配信
- ・支部実務委員会と協働しての、新規・更新・再登録申請者の各調査、確認作業
- ・'25 年度第 1 回(臨時・書面審議) および第 2 回(定期・オンライン開催)の認定評議会の準備と補佐
- ・キャンベラ協定をめぐる提案書を特別委員会あて、資格制度所轄の両委員長名で提出(5/15)
- ・建築家資格制度(登録建築家)紹介リーフレットの配布

V 本部役員候補者選挙

10 月 15 日発行の「JIA MAGAZINE 440 号」で 2026 年度正会員から選任する本部役員候補者選挙告示を行い、12 月 15 日に会長候補者選挙日程とその他役員候補者の確定について第 2 回告示を行いました。

た。1月15日に立候補者名簿・投票用紙等を送付し、2月9日に投票を終了、3月16日に会長候補者選挙の結果について第3回告示を行いました。

〔2026年度役員候補者(2026年度総会にて役員選任を審議する予定)〕

(氏 名)		(所属支部)
【理事候補者】		
松山 将勝		九州支部 (会長候補者)
川村 弥恵子		北海道支部
早坂 陽	(再任)	東北支部
田口 知子	(再任)	関東甲信越支部
八木 佐千子	(再任)	関東甲信越支部
安川 智	(再任)	関東甲信越支部
清水 智津子		関東甲信越支部
奥野 美樹		東海支部
萬野 光雄	(再任)	近畿支部
谷岡 拓		近畿支部
高志 俊明	(再任)	中国支部
伊月 善彦	(再任)	四国支部
福田 哲也		九州支部

VI 委員会活動等報告

1. 委員会活動

1) 職能・資格制度委員会

職能・資格制度委員会は計5回(6/2、7/25、10/10、2/3、3/11)を本部実務委員会との合同で開催しました。その他メールでの稟議を3回実施しました。また本委員会委員長として、前年度発足の「新資格制度を推進する特別委員会」に副委員長としてメンバーに加わり、委員会および幹事会を含め8回の討議に参加いたしました。またこれに対して、専門委員会として、これに沿った検討・討議を行ったため、独自の検討作業は行いませんでした。

主な作業は以下のとおりです。

- ・新資格制度を推進する特別委員会での議論に呼応し、当委員長および本部建築家資格制度実務委員長の連名で提案書「UIA アコードにおける教育に関連する事項の検討～キャンベラ協定へのJIAのスタンスをめぐり～」を5月15日に提出。また両名にて協議の上、二会合意に関わる資料および意見を提出。
- ・11月9日JIA千葉大会S19「建築家ってだれですか？」の企画および実施
- ・その他本部建築家資格制度実務委員会と共同での検討事項の協議

2) 業務委員会

昨年度より継続する「業務報酬フォローアップ」に加え、住宅等連携会議と協働し、社会資本整備審議会建築分科会の内容共有や意見徴収を行いました。また、建築三会検討会や国土交通省との意見交換会に精力的に参画。「建築士事務所法制等の改善」や「防火材料安全性向上ガイドライン(案)」、「建築分

野の中長期のあり方」等に対し、建築家協会の視点から意見書の提出や提言の整理を行いました。年3回の委員会開催のほか、公共建築工事の発注者用解説書への意見提出など、幅広い分野で JIA の存在感を示し、職能の確立に向けた活動を随時展開しました。

＜ワーキンググループ活動＞

①建賠 WG

建築に関する事故防止と建築家の責任の理解促進のため、主として以下の項目を実施しました。

- ・滅失もしくは損傷が発生する前の対策を講じるための「損害拡大防止費用」をカバーする損害拡大防止費用オプションを創設しました。
- ・建築士法改正による条文のずれ、告示98号が告示8号への変更、定義の明確化のため約款の改正を行いました。
- ・JIA顧問弁護士の竹川忠芳先生をお招きして「法令違反の設計をした建築家の責任」と題してセミナーを開催しました。
- ・沖縄支部・近畿支部・九州支部でケンバイ勉強会を開催しました。
- ・建築家大会(2025 千葉)における JIA マンスにおいて建築家を取り巻くリスクについての理解を深めるため、「ケンバイ」のちから（過去・継承から学ぶ 社会と建築家のあり方）と題した対談形式のセミナーを開催し多くの会員に参加いただきました。

また、大会会場において、ケンバイ制度の取組を紹介するブースを設置し、事故防止に向けた取組を多くの方にアピールしました。

②約款 WG

- ・「七会連合工事請負契約約款委員会」及び「四会連合建築設計・監理等委託契約約款研究会」活動と連動して WG を年 12 回開催し、JIA としての意見集約を図り、具体的意見として提案を行いました。また、JIA 理事会にて必要な報告を行いました。
- ・七会工事請負約款の調査研究活動として、工事約款改定部会、下請約款部会、改修約款検討部会、広報部会、約款販売部会等の諸活動に参画しています。
- ・建設業法、下請業法等の改正に伴う七会の各種約款類の一部改正案の作成活動に参画し、内容について JIA 約款 WG としての意見を提示しました。
- ・四会連合建築設計・監理等委託契約約款の調査研究活動として、「四会連合建築設計・監理等委託契約約款」改定検討部会、委員会に参画し、内容について JIA 約款 WG としての意見を提示しました。

③仕様書 WG

- ・公共建築協会からの「(七会)連合協定工事請負契約約款に適合した工事共通仕様書」の改定への意見照会(1月)および再照会対応(2月)を行いました。具体的には WG メンバーへの意見徴収を実施し、記載内容の変更や過不足項目等を一覧表に記載し、公共建築協会宛回答を提出しています。なお、改定案照会(1月)で提示した JIA 意見の採用率は比較的高く、「建築工事編」で 52%となっています。
- ・「工事共通仕様書」は令和 8 年 3 月末に改定リリースされていますが、令和 8 年版からは、従来の冊子での販売ではなく、公共建築協会 HP の会員向けページより DL 形式での PDF データ(建築、電気、機械別)での提供となっていますのでご注意ください。

④業務報酬基準 WG

昨年 6 月より計 6 回開催された「建築士事務所の開設者がその業務に関して請求することのできる報酬の基準に関するフォローアップ会議」での提出意見に係る協議を随時実施しました。会議の成果は、12 月 15 日の中央建築士審査会での資料となります。国が定めることを限定し、業界団体自らが業務に関する情報を開示する方針が示されています。具体的な検討は今後に委ねられますが、解決すべき多くの課題を抱えています。

3)財務委員会

JIA の健全な財政のあり方として、受取会費と事業収益を軸とした経常収益の確保と本部・支部・地域の収支・財務の健全化を図るとともに、会員減少の推移を踏まえた経常収支の安定を図っています。2025 年度は委員会ミッションに基づき下記の活動を行いました。

- ・収支の把握と分析(過去 10 年の収支・財務状況の推移確認、今後 5 年の収支推移予想)
- ・財務健全化に向けた提言案策定(2026 年度継続)
- ・公益目的事業費の比率確認
- ・予算策定における提言(予算案の確認、重点項目の整理)
- ・事業活動助成の審査(新規 3 件採択、報告 2 件承認、1 件延期確認)

4)総務委員会

総務委員会のミッションは「本会の運営に関する総務事項の管理」です。全国の支部から参加する 12 名の委員を中心に、毎月の委員会で慎重な協議を行っています。

主な活動内容は下記のとおりです。

- ・入退会審査
- ・委員会構成審査
- ・準会員・協力会員入会申込書、退会、移動等改正
- ・各種法制度改正の対応
- ・ハラスメント防止措置の対応
- ・各種規程の改正
- ・名誉会員選考手順の見直し
- ・業務委託契約書の確認
- ・フェロー会員推薦審査
- ・正会員資格要件に関する準用基準
- ・役員立候補等の立候補書類の電磁的方法の活用 など

<ワーキンググループ活動>

①知財 WG

知的生産者の公共調達に関する法整備連絡協議会および知的生産者選定支援機構の活動に対応する JIA 内部組織として、昨年度に引き続き法整備連絡協議会およびシンポジウムの事務局支援をしました。

5) 広報委員会

広報委員会の主たる活動である「社会に向けた発信」について報告します。毎月の委員会では、各 WG 報告や各支部活動報告を受けて意見交換を行い、責務を果たすため真摯に取り組んでいます。

<ワーキンググループ活動>

① JIA マガジン編集 WG

会員の為になる誌面づくりに向けてコンテンツの充実に努力しています。新編集長の塩崎太伸さんと小林佐絵子さんによる全国の地域会を毎号1地域会紹介する企画が軌道に乗りました。

② HP 保守 WG

ページ修正提案・トップページ写真選定と掲載など、HP 運用の方針を検討しました。常に HP の改修を行なっています。

③ 建築家 PR 動画推進 WG

JIA 公式インスタグラムへの投稿、リール動画の投稿について、一つの成果が出たと判断しています。今後は更に専門家の意見も聞きながら、建築家の活動を広報するための、動画の新しいメディア戦略のあり方について継続的に議論を重ねていきます。

6) 教育委員会

一般市民への JIA のプレゼンスを高め、その認知度の向上を通して、地域社会における「建築および建築家の価値」の意識醸成を目的とした教育活動の実施をいたしました。

2025 年 10 月 18 日に JIA フィールドトリップ(JIA 日本建築大賞受賞作品建築見学会・講演会)を開催。44 名(JIA 会員 22 名、一般 15 名、学生7名)の参加がありました。

本事業は参加者より好評を得ており次年度以降の継続開催を予定しています。

7) 表彰委員会

表彰委員会では、例年通り、日本建築大賞・優秀建築賞、新人賞、25 年賞、環境建築賞、あかりコンペを実施しました。

あかりコンペは 2025 年 11 月 19 日最終公開審査会にて授賞式を行いました。

また、2025 年度より優秀建築選も再応募可能となり、近年の応募数を大幅に上回る結果となりました。建築年鑑の在り方について議論をしました。

8) 国際委員会

1. JIA が加盟する国際団体を通じての活動:国際建築家連合(UIA) の理事会、常置委員会および Work Programme に評議員(理事)、委員を派遣し、また ARCASIA 大会、ACA21(仁川) には、会長他、各委員会の委員を派遣しました。
2. JIA の協定締結国(協会)との定期的な活動:アメリカ建築家協会(AIA)、タイ王立建築家協会(ASA)、韓国建築家協会(KIA)の全国大会に出席しました。
3. 他国建築家協会来訪による活動:オーストラリア建築家協会、コートジボワール建築家協会、シンガポール建築家協会などの来訪があり、さまざまな交流を行いました。
4. 国際委員会が主催するイベント:JIA 建築家大会 2025 千葉において、International Presidents' Forum を開催しました。

5. 「JIA ゴールデンキューブ賞 2023-2026」公開審査に参加し、UIA バルセロナ大会における「UIA GOLDEN CUBE AWARD」に応募する作品を選定しました。

9)CPD 評議会

毎月 1 回 CPD プログラムおよびプロバイダーの認定審査を行う評議会を開催しました。なお、プログラム開催月が同月評議会前のプログラムについては、2 名の委員でメール審査を行っています。

今年度、認定したプログラム数は、グループ認定を含め、1,648 件、プロバイダー認定は 8 件でした。

また CPD 細則改定、QR コード活用による単位付与 AIA との協定の延長などについて、協議を行いました。

2. 必要時に立ち上げる委員会

1)選挙管理委員会

9 月 18 日開催の第 1 回選挙管理委員会にて、役員候補者選挙規程等の内容確認や選挙日程等を決定し、10 月 15 日に第 1 回告示を行いました。11 月 26 日の立候補締切り日までに会長候補者は候補者数と定員を上回ったため投票を実施、その他の理事候補者は候補者数と定員が同数であったため、投票は実施せず、候補者確定の第 2 回告示を 12 月 15 日に行いました。1 月 15 日に立候補者名簿・投票用紙等を送付し、2 月 9 日に投票を終了、3 月 16 日に会長候補者選挙の結果について第 3 回告示を行いました。候補者等については前述の「Ⅴ 本部役員候補者選挙」に記載しています。

2)名誉会員選考委員会

2025 年度通常総会に推挙する名誉会員について、5 月 20 日に委員会を開催し、支部推薦 3 名、海外推薦 1 名の選考審査を行い、理事会に答申しました。

【支部推薦】 横河健会員(関東甲信越支部)

道家駿太郎会員(近畿支部)

吉羽逸郎会員(近畿支部)

【海外推薦】 エヴェリン リー氏(AIA 会長)

3. 特別委員会

1)BIM 特別委員会

告示 8 号においては、成果図書の作成方法(手書き・CAD・BIM など)については特に定められていません。2025 年度は設計実務者が BIM での基本設計及び実施設計の「成果図書」を合理的に作成する場合の目安として、BIM データ入力の方法と、その方法を踏まえたモデリングガイド等を、建築三会で「建築物の設計における成果図書の作成を目的とした BIM データ入力の方法(第1版)」として纏め、国土交通省 BIM 推進会議 HP 等でリリースしました。

令和 3 年 10 月に公開された「設計 BIM ワークフローガイドライン建築設計三会(第 1 版)」は、一貫したワークフローを実現するための「あるべき理想的な BIM データ」を作成することを目的として作成されていますが、当面、告示8号に準じた「建築物の設計における成果図書の作成を目的とした BIM データ入力の方法」を作成し、関係者間の共通理解を図り、これを運用することで更に設計者が BIM に取り組みやすい環境の構築を目指しています。

2) オンライン/リモート対応や環境整備に特化した特別委員会

今期本委員会は、JIANet の運用を 5/1 に会員向けに、8/1 に一般向けに予定通り公開致しました。ここに至るまで、理事会をはじめ会員の皆様にご協力を頂き、誠にありがとうございました。特に、広報委員会や本部事務局の方々にたいへんご協力を賜りました。ここに御礼申し上げます。

JIANet のデータベース機能は、今後の JIA における DX 化への重要な基盤です。運用開始後、大きな問題は発生していませんが、今後の安定運用と、さらなる交流促進、組織運営の効率化・発展を目指して、課題点の整理を行い、来期の在り方を考察しました。

3) 新資格制度を推進する特別委員会

本委員会も2年目となり、JIA内の議論をしつつ新制度の確立に向けて建築士会連合会との協議を重ねてきました。そして当初の目標としていた 2025 年度内に二会合意を目指して本年は集中的に開催し、2026 年 3 月 18 日に二会による基本合意締結に至りました。今後は具体的な制度設計を通して 2028 年 4 月運用開始に向けて新特別委員会を組織し推進いたします。

1. 新制度二会合意に向けての議論(全体会議 3 回、幹事会 4 回)
2. 建築士会連合会との二会合意内容の協議(6 回)
3. JIA千葉大会・大会マンス「けんちくあいことば」開催(10/16)
4. JIA千葉大会でのセッション「建築家って誰ですか？」開催(11/7)
5. 「JAPAN アーキテクト」制度基本事項の二会合意締結(3/18)

4. 全国会議

1) JIA環境会議

1. 隔月での会議を 5 回にわたって実施しました。今年から、会議の冒頭に外部の方からの情報提供の時間を設けて、先進技術や知見を積極的に共有することにしました。
2. カーボンニュートラル(以降CN)連続セミナーは、中国支部、関東甲信越支部、近畿支部で計 3 回開催されました。対面や見学を取り入れたセミナーもあり、年々多様化しています。
3. 社会資本整備審議会建築分科会建築環境部会へ、環境会議メンバーである専門委員を通じて、環境会議としての意見を提出しました。
4. 保存再生会議との連携をはじめようとしています。2026 年度の北海道大会のマンス企画には、2 会議合同でセミナーを開くこととしています。
5. 環境会議 HP をプチリニューアル。検索しやすく改良しました。

2) JIA保存再生会議

2025 年度も引き続き、能登半島地震での文化財ドクター派遣事業を実施し、具体的な修理事業に向けて進捗中です。JIA 建築家大会 2025 千葉では、「保存再生の今とこれから」を実施しました。

文化財修復塾 WG は、「JIA 文化財修復塾」を「JIA ヘリテージマネジャー養成講座」、「JIA 文化財修復塾修了者」を JIA ヘリテージマネジャー、「JIA ヘリテージマネジャーPLUS」に名称を変更し、養成講座を実施しました。近現代建造物調査対応 WG は、昨年度からの沖縄県と群馬県での近現代建造物緊急重点調査事業(文化庁)に地域の会員が参加しとりまとめに貢献しました。

3)JIAまちづくり会議

コロナが明けて以降、まちづくり会議のメンバー、JIA会員、学生を含む一般市民の方も合同で、自分達の暮らすまちについて再考する機会を企画、運営してきました。

JIAが全国の多様な地域の会員である特徴を活かし、様々な視点でそのまちを見つめ直し、自分達が住むまちの魅力を再認識して貰って、今後のまちづくりに活かすと同時に、地元会員がその後活動する地均しもできたらという意図で行って来ました。

一昨年は、初めての試みとして愛知県の常滑市、昨年は大分県別府市で開催し、今年は、JIA建築家大会 2025 千葉大会において、開催地の千葉市で「まちあるき」プログラムを企画・運営しました。

又、プレイベントとして、そのまち歩きに繋がる内容でシンポジウムを開催しました。

1. 「せんのちから～多様性を尊重し繋がりを生み出す、社会と建築のあり方について」という題で、田中元子さんを講師にお招きして、大きな道路が行き交う千葉市の道路面のまちづくり活動について、魅力や見どころをレクチャーしていただきました。

その後、地元行政の方から、千葉市の特徴やまちづくり活動の方針等について伺いました。

全国から会員、参加者が集まるので、突然予備知識無く訪問して、初見でまちの魅力を見つける事は困難であるので、まち歩き本番に向けた予習という位置付けだったと思います。

2. 開催地千葉市で、地元の学生と我々会員と一緒に、混成チームを構成してまち歩きを行い、引き続きまち歩きで探して来た各種ネタを「タカラ」と「アラ」に分けて分析し、改善案を作成・提案するというワークショップを行いました。

上記のように、今年は 3 年目を迎え、まちづくり会議のメンバーもファシリテートのノウハウを少しずつ身に付けて、短時間ながら、学生達とコミュニケーションを取りながら、魅力やあらを拾い上げ、それを建築という行為に翻訳して、即日設計を行って、大会参加者が集まる受付ホールの一隅でプレゼンテーションをさせていただきました。

成果物は、千葉市にお渡しさせていただき、今後のまちづくりに役立てていただく事になりました。

その晩は、参加者で反省会&懇親会を開催。全国各地で活動しつつ、お互いになかなか直接会って話をできる機会が少ないので、日頃のお互いの報告や意見交換等をさせていただきました。

4)JIA災害対策会議

各地で震度 5 弱以上の地震の発生が増えてきました。これに備えるため、より速やかに、そして実態に即した運用を目指して見直しを進めてきたJIAの「BCP(業務継続計画)」を2025年10月に改訂しました。あわせて「災害時支援活動規程」の改訂を行っています。今後は運用を通じながら、より実効性のある計画・規程となるよう、調整していきたいと考えています。また、各支部に備えつけとなる緊急時の連絡先名簿「災害対策ネットワーク」の更新は最重要項目です。これまで数か月を要した更新も比較的スムーズに完了するようになってきました。新年度も引き続きの更新に協力いただけますようお願いします。

5)JIA建築相談連携会議

各支部の建築相談委員会及び支部地域会相談室によって、相談の対象、記録の仕方など相談の仕組みは様々ですが、首都圏相談室の記録シートを基本モデルとしてすすめております。

昨年度は、(公財)住宅リフォーム・紛争処理支援センターからの申し出があり、品確法に基づく住宅紛争審査会の建築士紛争処理委員の増員の確保のためのセミナーを JIA と共同企画で関東甲信越支部

にて開催しました。2026 年度も引き続き、同セミナーを他の支部に拡げていく予定であります。

6) JIA 住宅等連携会議

今年度、ほとんどの委員が新任となったため、月一回の全体会議では、会議体の目的や活動方針などを再確認いたしました。JIA マンスのシンポジウムは、「建築家、新しい家族をデザインする」というテーマで開催し、120 名を超える参加者がありました。社会発信として、HP に建築家の活動紹介を掲載しています。二つの WG (BIM/業務環境改善) に関しては、来年度に向けて活動内容の議論をしています。また、国交省の社会資本整備審議会への対応も業務委員会と連携して進めることとなりました。参加することが楽しく、意義を見出せる会議体を目指しています。

7) その他の活動

全国卒業設計コンクール実行委員会

6 月 28 日、建築家会館大ホールに出品者が集合して、全国学生卒業設計コンクールを開催しました。全国から選抜された優秀作品 51 点を審査し、金賞 1 作品、銀賞 1 作品、銅賞 1 作品、審査委員特別賞 5 作品を決定しました。

VII 支部長報告

1. 北海道支部(小西彦仁支部長)

2025 年度は下記の事業を行いながら、「JIA 建築家大会 2026 旭川」の準備に主力が注がれた年となりました。

[2025 年度の主な活動]

- ・2026 年度の建築家大会に向け実行委員会を 2025 年秋に立ち上げ現在企画が進行しています。
- ・住宅作品発表会を 2025 年 10 月に HAI 事務所にて開催、40 名近くが集まりました。
- ・JIA スクールセミナーを 2 回実施しました。
- ・HOKKAIDO ARCHITECTS を 2 回発行しました。
- ・北海道デザインセンターの設立と新美術館への要望について、北海道デザイン協議会と情報共有を行いました。
- ・設計家会館の各団体と連携と共同行事を協議を行いました。
- ・道庁との「きた住まいるビレッジ」の事業協力を継続しました。
- ・新会員の入会促進を継続しています。

2. 東北支部(早坂陽支部長)

2025 年度は、「地域に根ざした建築文化の継承と創造」を掲げ、東北 6 県の各地域会の活動をサポートしつつ、豊かな風土に適応した建築のあり方を目標に追求しました。特に、環境性能とデザインの融合、および次世代の建築家育成に重点を置いた活動を展開しました。

コロナ禍以降の対面イベントが完全に定着し、特に「JIA 東北住宅大賞」や「建築学生賞」において、リアルな空間での議論が活発に行われました。また、台湾との交流に見られるようなグローバルな視点と、東北の地域性を結びつける試みが進展した一年となりました。

[2025 年度の主な活動]

1) 表彰・コンペティション事業

・第 16 回 JIA 東北住宅大賞 2025(12 月 5 日)

せんだいメディアテークにて公開審査を実施し、6 作品選出。坂上敦志氏(gif)、早川真介氏による「学習教室の循環(第 1 期)」(福島県郡山市)を住宅大賞に、その他、優秀賞・住宅賞など各賞を決定しました。

・第 29 回 JIA 東北建築学生賞(2025 年 10 月 30 日)

東北各大学の在校生が各教育機関の設計課題で制作した未発表の建築設計作品についてコンクールを行い、学生と、建築家との対話の場を提供しました。参加 12 校(10 大学 1 大学校 1 高専)13 学科より 34 作品が応募、審査を行いました。最優秀賞に東北芸術工科大学デザイン工学部建築・環境デザイン学科、立花美和さんが選ばれました。

・JIA 東北学生卒業設計コンクール 2026(2026 年 2 月 27 日)

東北の建築系大学・高専の学生による卒業設計のコンクール、参加 8 大学(9 学部)1 高専、10 作品が応募、審査を行いました。最優秀賞に日本大学工学部建築学科、細川慶次朗さんが選ばれました。

2) 建築文化啓発・交流事業

・せんだいメディアテークで JIA 宮城地域会が主催したアーキテクツウィーク(AW)2025(2025 年 10 月 28～29 日)において、台南建築師公會の翁廷楷、謝宗哲、陳冠瑋の三氏に來仙していただき、共同で 2025 台南國際建築三年展参加と交流の報告会を実施しました。

・JIA 東北建築家フォーラム 2025 (2025 年 5 月 15 日)

2024 年度大賞受賞作品「大熊町立学び舎ゆめの森」の記念講演会を実施。震災復興と教育施設の未来について発表していただき、学校建築の議論を深めました。

3) 国際交流・広域連携事業

・2025 台南國際建築三年展への参画

台湾・台南市で開催された国際展に東北支部有志が参加。2025 年秋に報告会を実施し、アジア圏における地域建築の共通課題と差異について知見を共有しました。あの、台南市のあつい風や風景が、忘れられません。今後も続いていく絆と交流を大切に深めていきます。

・JIA 建築家大会 2025 千葉(全国大会)への参加、協力。

3. 関東甲信越支部(渡邊太海支部長)

1990 年の鬼頭梓副会長は「JIA が目指すもの」という提言書の中で、JIA の責任は「JIA 並びに会員は、厳しく自らを律することによって、法に代わって建築家とは何であるかを社会に示し、その存在と理念とについて社会の容認を得ていくこと。」「そのため JIA は、建築家はどんな業務と、どんな倫理を持ち、どんな能力をもつ人なのかを示し、それを担保する機能をもつこと。」「建築家らしい建築家を育て上げ、JIA の姿勢を日常の地域活動を通じて市民の理解を求めていくこと。」が必要と明記しています。

そして JIA の目指すべきものは、「プロフェッショナルを目指す建築家の団体」であると結んでいます。

35 年前の提言ですが、JIA の責任と目指すものは身が引き締まります。

支部執行部として運営に汲々として、小手先だけでこね繰り返すだけでなく、もっと JIA の本質を伝えていくことの重要性を次年度以降に伝えていきたいと思います。

1. JIA 活動の活性化と建築家の職能の確立

- ・「資格制度は興味が無い」という声の中、JAPAN アーキテクトの認証制度が二会合意の具体的内容を「新春の集い」で両会長を招き広く周知を図りました。

- ・千葉全国大会でのまちづくり、保存、災害対策、環境など社会公益活動の推進実施、若手会員・学生会員及び学生、市民との連携を実施しました。
- ・多彩な手段による広報の推進は、千葉全国大会のガイドブックを作成し、JIA,建築家の多様な職能を発信しました。

2. 建築家の職能及び資質の向上を推進

- ・本部理事会からの情報(業務関連)周知の実施。
- ・設計監理業務における発注者支援の取り組みとして長野県松川町の支援を実施しました。
- ・建築家賠償責任保険(ケンバイ)加入の会員への周知実施。

3. 建築家が社会貢献しやすい組織づくりを推進します。

- ・JIA 建築家大会 2025 千葉の開催(実行委員会、千葉地域会、法人協力会員との連携実施)。
- ・地域会に所属していない約 700 名の支部会員を次年度は地域会グループ所属とし支部が直接情報発信できる仕組みを確立しました。
- ・地域会では一部の人が持ち回りで役員、幹事、会計を担っているため、次年度は地域会の負担軽減を目的に会計を支部が実施する方針を決定しました。
- ・JIA 建築家データベース(仮称)の推進→JIANet の周知、メールアドレス明記。

4. 東海支部(浅井裕雄支部長)

2025 年度の東海支部は、能登半島地震からの復旧・復興が続くなかで建築家の社会的役割を改めて問い直すとともに、南海トラフ地震の新たな被害想定を受け、この地域において建築家が果たすべき責任の重さを再認識する一年となりました。こうした状況を踏まえ、東海支部では、災害対策、市民との信頼関係の構築、持続可能な支部運営への改革、支部活動の活性化を柱として事業を展開しました。

持続可能な支部運営に向けては、旧財政諮問会議を「支部未来戦略会議」として再編し、財政のみならず、事業、組織運営、会員構成、将来の支部のあり方を含めた議論を進めました。会員の高齢化、若手会員の減少、活動の担い手不足といった課題に対し、支部の財政状況、活動内容、運営体制を総合的に検証し、改革の方向性を整理しました。具体策としては支部会費導入の検討を重ね、役員会や各地域会との協議を経て、年額 18,000 円の設定に至りました。これは、各種顕彰事業や災害対策、地域会活動支援などを安定的に継続するための基盤整備であるとともに、協賛金に過度に依存しない持続可能な運営体制の構築を目指すものです。また、今後に向けては、財政・事業・事務運営を横断的に確認できる体制づくりの必要性を共有しました。

災害対策では、災害対策会議 WG を中心に、JIA として果たすべき役割を整理し、私たちにできる災害対応を具体化するアクションプラン策定の方針を確認しました。災害への備えと対応を、地域に根ざした建築家の実践としてどう組み立てていくかは、今後の東海支部にとって重要な課題です。

市民との信頼関係の構築においては、「頼りになる建築家」としての姿勢を社会に示すため、市民に信頼される建築家像をどのように可視化していくかについて議論を進めました。建築家の職能や役割を社会に伝え、理解を広げていくことは、今後の公益的活動を支える基盤として引き続き重要です。

支部活動の活性化では、愛知・岐阜・三重・静岡の各地域会を上下関係ではなくフラットにつなぎ、相互に支え合う環境づくりを重視しました。2026 年 5 月末公開予定の新ホームページでは、各地域会の活動を横断的に把握できる構成を目指し、支部全体の見える化と交流促進の基盤整備を進めています。

また、若い世代の育成や会員同士の交流促進にも継続して取り組みました。

このほか、事務局環境の改善、支部大会 2026 静岡 in 伊豆の国「史考する建築」の開催、「ARCHITECT」誌の継続発行と契約・運営体制の見直しを行いました。また、JIA 東海学生卒業設計コンクール、JIA 東海住宅建築賞、JIA 東海支部設計競技などの継続事業も実施し、支部活動の発信と次世代育成の両面で着実な成果を重ねました。

5. 北陸支部(浦渚支部長)

2025年度は、能登半島地震からの復旧・復興が本格化する中で、建築家の社会的役割が改めて問われた一年となりました。北陸支部では、被災地域に寄り添いながら、建築・地域・文化を横断する活動を展開し、JIA の公益性と専門性を社会に示す取り組みを進めてまいりました。

特に能登地域では、被災住宅相談、被害認定支援、歴史的建築物調査、地域コミュニティ再生支援など、多面的な活動が求められました。JIA 北陸支部では、「一般社団法人 能登復興建築人会議」との連携をさらに深め、悉皆調査や復興提言、情報発信などに主体的に関わりました。

共催の「能登ボイス」では、建築のみならず、文化・歴史・暮らし・コミュニティの視点を含めた復興の対話を重ね、全国から多様な参加者を迎える場となりました。震災を単なる復旧ではなく、“地域の未来を再編集する契機”として捉える議論が各地で行われ、北陸支部としても重要な役割を果たすことができました。

一方で、各地域会では、次世代育成や建築文化の普及活動を継続して行いました。子どもや若者に建築や地域の魅力を伝える活動を通して、地域社会との接点づくりや建築文化の継承に取り組みました。また、支部大会や講演会、フォーラム等を通じて、会員同士の交流と学びの場づくりにも努めました。

人口減少や空き家問題、担い手不足など、地域社会を取り巻く課題が深まる中で、建築家には地域の未来像を描き、多様な主体をつなぐ役割が求められています。北陸支部では、建築・文化・地域・教育を横断した活動をさらに深化させ、地域に根差した建築家集団として、公益性と専門性を両立した活動を継続してまいります。

[2025 年度の主な活動]

1. 能登復興関連活動(能登復興建築人会議連携事業)

- 1)被災住宅相談・悉皆調査・歴史的建築物調査への参画
- 2)能登半島地震復興勉強会・意見交換会の開催
- 3)復興まちづくりに関する情報発信・提言活動

2. 「能登ボイス」への主体的参画

金沢市・七尾市ほかで開催される復興対話事業への参加・運営協力

3. JIA 北陸支部大会 2025in 金沢の開催

4. 全国学生卒業設計コンクール北陸支部審査会

5. 次世代育成活動

1)「青少年育成事業」(福井地域会)

高校生向け建築ワークショップの開催

2)「JIA こども建築塾」(石川地域会)

サマーキャンプ、こどもけんちく塾等の開催

3)「ONE ワク 2025」(富山地域会)

地域とつながる建築・空間づくりワークショップ

6. 建築文化講演会・技術フォーラム

各地域会による講演会、シンポジウム、技術交流事業の開催

7. 会員交流・広報活動

地域会活動支援、若手会員交流、情報発信の強化

6. 近畿支部(松尾和生支部長)

建設界の総力を挙げた大阪・関西万博 2025 が無事に終了し、関係者一同が安堵したのはつかの間、2025 年度の末、予期せぬ戦争がまたしても起こり、世界経済はどこへ向かうのかという不透明な国際情勢に陥っています。建設物価、資材の供給不安もさることながら、化石エネルギーに頼らぬ次世代エネルギーの必要性を切に感じるようになりました。

この著しい社会変化の中でも、JIA の公益活動が柔軟に対応可能な組織的改革が望まれます。昨年、近畿支部組織改革委員会を立上げ、6地域会が持続可能な支部の予算管理と公益活動の充実を目指した結果、昨年度から収支は改善され、来年度は更に明るい兆しが見える状況になっています。

社会に貢献できる建築家団体として、JIA の未来を支える柔軟な組織改革を進めながら、「頼れる建築家」として真の意味で社会から必要とされ、社会により認知されてゆくことが大切ではないでしょうか。

[2025 年度の主な活動]

- ・ゴルフコンペ「JIA-K2CUP」、納涼ビアパーティー、忘年会、若手建築家×協力会員企業勉強会の開催【協力会員委員会】
- ・小松ウォール/LIVE Office ツアーの開催【マスターズ委員会】
- ・table05 発刊(発刊記念イベント含む)、メールマガジンの発行(12 回)【広報委員会】
- ・釜山国際建築大展・釜山国際建築祭への参加、中華民国全国建築師会との協力確認書締結【国際交流委員会】
- ・「THEDIALOGUE」建築家事務所訪問(Vol.3・Vol.4)、若手建築家と共に考える万博と「これからの建築」の開催【青年委員会】
- ・第 15 回関西建築家新人賞の実施(受賞者:新森雄大氏)【表彰委員会】
- ・学生卒業設計コンクールの開催(最優秀賞:大島英美里氏)【建築教育研究会】
- ・弁護士を招いた勉強会「建築事務所を舞台とする労働紛争」、裁判官を招いた勉強会「設計者が持つべき建築物の基本的安全性に対する認識」を開催【建築相談委員会】
- ・近畿支部通常総会及び関連事業を開催
- ・近畿支部大会「ARCHITECTS' DAY 2025 IN WAKAYAMA」を開催
- ・「かつらぎみらいの森アイデアコンペ」業務支援活動(登録 89 件、作品提出 39 件)【事業ユニット】
- ・第 14 回景観まちづくりフォーラム、「魚谷繁礼建築講演会」の開催 他【滋賀地域会】
- ・建築と子どもたちワークショップ(7/27)、京都・岡山交流会の開催 他【京都地域会】
- ・アーキテクツカフェ(2 回)、すまいまちづくり育成塾、ひょうご歴史的建築物セミナーの開催他【兵庫地域会】
- ・事務所訪問・アーキテクツスタディ等の連続企画イベント(10 回)、第 44 回大阪都市景観建築賞の共催 他【大阪地域会】
- ・奈良県登録有形文化財所有者の会立ち上げサポート、「餅飯殿 NEXT+コンペ」実施設計協力他【奈良地域会】

・第8回きのくに建築賞の実施、「建築物木材利用促進協定」和歌山県との締結他【和歌山地域会】

7. 中国支部(高志俊明支部長)

2025年度は、JIA 中国支部として対面による「温度」のある活動と、オンラインによる効率性を使い分けながら、一步一步、歩みを進めた一年でした。支部としての活動を一つひとつ丁寧に積み重ね、組織体制を意識しながら事業を進めてきました。

【地域を越えた交流と事業の成果】

本年度は、例年の支部事業である「中国建築大賞」や「支部大会」を、支部組織として継続して実施することができました。

特に、新年会を岡山で、支部大会を島根で開催できたことは大きな成果です。普段なかなか顔を合わせる機会の少ない会員の皆様と直接語り合えたことは、支部の一体感を高める貴重な時間となりました。今後は、各地域会での活動に支部として協力していく体制をさらに整えていくことが、組織の活性化において重要であると感じました。

【AI 時代における「人のつながり」の価値】

技術革新が加速し、AI が急速に発展を遂げている今だからこそ、私は改めて「人のつながり」の重要性を強く感じています。デジタル技術では代替できない、建築家同士の熱意の共有や、顔を合わせて空気を共有することの価値は、時代が進むほどに増していくものです。こうした人と人との関わりの中で生まれる創造性を、これからも大切にしていきたいと考えています。

2026 年度には役員改選が予定されており、本年度はその新体制へスムーズに引き継ぐための準備の年でもありました。委員会活動の基盤をさらに強固にし、その先に控える「全国大会」という大きな目標に向けて、支部としての力をさらに高めていく必要があります。

今後も模索しながら進む場面は多いかと思いますが、これまで培ってきた経験と、会員の皆様とのつながりを糧に、より魅力ある組織を目指してまいります。

[2025 年度の主な活動]

1) 支部総会

2) JIA talk (JIA 中国支部建築家大会 IN 出雲 2025)

会場である「ビッグハート出雲」を題材に、コンペ参加者、審査委員長、実施設計者、発注者、施設管理者の各視点から多角的なトークセッションを行い、建築プロセスの価値を共有しました。

3) 第 17 回 JIA 中国建築大賞 2025

アトリエ事務所から組織事務所まで、またリノベーションから大規模プロジェクトに至るまで、多様かつ質の高い応募を多数いただきました。

4) 卒業設計コンクール

5) アニュアルレポート(年 1 回)の発行

6) 芝生の上の本棚コンテスト(広島地域会)

広島地域会にて、福山市教育委員会と共催し、JIA 事業助成を受けて第 1 回を開催後、今回で第 4 回を迎えることができました。

高校生から大学院生まで幅広い応募があり、最優秀作品を実際に制作することができました

7) 各地域会での講演会・セミナー

以上、中国支部では組織的な事業運営に努め、地域会では多団体との協働による活動を主軸として展開

しました。

8. 四国支部(伊月善彦支部長)

2025 年度の四国支部活動は、国際情勢の変化による資材価格や物流の不安定化など、建築を取り巻く環境が一層厳しさを増す中で、建築家として何ができるかを改めて問い直す一年となりました。特にホルムズ海峡情勢に端を発したエネルギー・建設関連コストの高騰は、地方における建築計画にも大きな影響を与え、我々建築家には、社会や地域の状況を的確に捉えながら、持続可能で現実的な提案力がこれまで以上に求められました。

そのような状況の中にあっても、JIA 四国支部では会員同士の活発なコミュニケーションと強い結びつきを大切にしながら、各地域会が連携し、楽しく前向きに活動が続けることができました。また、JIA 学生卒業設計コンクール 2026 四国支部予選の数年ぶりの開催を通じて、次世代を担う学生たちとの交流を深め、建築の未来について共に考える貴重な機会を得ることができました。

今後も JIA 四国支部は、社会や地域とのつながりを大切にしながら、建築文化の発展と建築家の社会的役割の向上に努め、四国から全国へ向けて建築の力を発信してまいります。

[2025 年度の主な活動]

- (1) JIA 四国支部通常総会・大会 2025in 徳島、会場:アクアチッタ
- (2) JIA25 年建築選支部審査
- (3) 愛媛大学 伊東豊雄氏客員教授就任記念講演会
「瀬戸内から次代の建築や生活を考える」-愛媛地域会協力で開催
- (4) 「第九回高知建築文化賞」表彰式開催
- (5) 四国デザインフェュージョン 2026
学生デザインコンペ「空き家・空き空間の再生」及び魚谷氏講演会
- (6) JIA 学生卒業設計コンクール 2026 四国支部予選開催
- (7) JIA 建築市民講座「風景と建築」-石上純也講演会開催

9. 九州支部(佐々木寿久支部長)

九州支部として、今年度も地域会活動・地域社会活動・若手との交流、表彰活動を中心に行ってきました。

また、関係団体との情報共有により法改正・BIM 推進を発信し、理解を深める事が出来ました。支部運営に関して、役員会資料、広報事業(会報誌)をデータ配信にすることで、コストの削減を可能にし、保存の簡略化にも成功しています。これからも節度のある DX を進めていきます。今後、固定費のスリム化、事業費としては、事業と役員会を併用するなどの工夫が、必要だと考えます。

[2025 年度の主な活動]

・会員集会

5月の支部総会時、地域会自慢をテーマにいろいろな話題で、プレゼンテーションをして頂きました。地域性や会員個人、着目点が多様な面白さがあり、大変興味深いものとなりました。

・建築家派遣エコルサポート

小中学校の児童を対象とした教育活動です。児童と町づくりを考え、模型などの成果物まで一緒に学ぶ事業です。

・九州ホームアンドビルディングショー2025

展示会の一部、ブースを借り、九州支部の4名の会員が、それぞれにトークショーを行っています。

・九州建築新人賞

今年3年目を迎え、九州全体に浸透してきました。実際、参加者の JIA 会員へ入会促進にも貢献できています。今後課題など解決しながら進めたいと思います。

・地域交流会 熊本

JIA 熊本住宅賞の公開審査と熊本城下町街歩きとの合同企画で、熊本の街並みと地域性を知る良い機会となりました。

・九州建築塾in北九州

今年は11名の塾生が集まり【TIME SCAPES】をテーマに、時間について考え、それぞれの考える1つの単位を起点に、グループで1つの成果物を求めました。北福岡地域会主催、日韓合同学生ワークショップと同時で開催しました。事業として大きなものとなりましたが、その反面、拘束時間と出席者の増員につながったと考えます。

・デザインレビュー2026

予選審査:応募数 360 作品 公開審査出展 60 名

最優秀1作品、優秀 2 作品を決定しました。同時に JIA 全国学生卒業設計コンクールに 6 名を推薦しています。

10. 沖縄支部(金城優支部長)

平素より公益社団法人日本建築家協会(JIA)沖縄支部の活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。法人協力会員の皆様には、各事業への継続的なご支援に深く感謝申し上げます。沖縄支部は1997年に九州支部から分離し、今年で29年目を迎えました。来年度の設立30周年に向け、建築文化の発展を見据えた取り組みを進めております。

2025年度は、会員・個人会員・協力会員が連携し、多様な専門性を生かした事業を展開しました。事業運営の見直しに加え、ホームページやSNSの刷新など情報発信を強化しました。本部関連では「2050カーボンニュートラル連続セミナー」や「JIA 建築家大会 2025 千葉」への参加を通じ、全国的な交流が深まりました。支部事業としては「JIA 沖縄トーキング・カフェ」や名護での建築見学会、「沖縄未来建築塾」など、対話と学びの場を広げました。

若手育成では「建築九州賞」「JCD OKINAWA 空間デザイン賞 2025」「ティーダフラッグス(U40 コンペ)」を通じ、次世代の発掘と支援を継続しました。「卒業設計作品選奨」や「災害シンポジウム」でも活発な議論が行われました。

[2025年度の主な活動]

1)「機関紙かぬち」29号発刊(通年事業)

1年間の支部活動を総括する機関誌(海外対応英訳版)

2)「JCD デザインコンペ審査講評会」(2025年11月14日)

日本商環境デザイン協会沖縄支部主催 公開審査

- 3)「公共建築の日・公共建築月間講演会」(2025 年 11 月 28 日)
「公共建築の日」及び「公共建築月間」 沖縄地区実行委員会主催
テーマ:「作品づくりと社会貢献の両立を目指して」 講 師:坂 茂
- 4)「第 14 回ティードフラッグス(U-40 コンペ)2025」(2025 年 12 月 24 日)
沖縄県主催 「沖縄県平和祈念公園休憩所」公開審査
- 5)「第 19 回建築九州賞」:最終審査(2025 年 12 月 24 日)(一社)日本建築学会九州支部主催
一次審査:未公開 二次審査:オンライン開催 三次審査:現地審査 最終審査:未公開
- 6)「建築作品見学会 in 名護(バスツアー)」(2026 年 2 月 14 日)
見学箇所:ハウス・オブ・クリエイターズ(屋我地島)・名護市庁舎
- 7)沖縄未来建築塾同窓会(2026 年 2 月 28 日)
テーマ:「今、考えていること・沖縄に必要なこと」
- 8)「第 29 回卒業設計作品選奨公開審査」(2026 年 3 月 7 日)
「短大・専門・専修学校部門」・「大学部門」 公開審査
- 9) 災害対策シンポジウム(オンライン開催)(2026 年 3 月 12 日)
テーマ「沖縄の未来を守る災害対策シンポジウム」
一部:能登より沖縄へ。建築家から学ぶ、震災・防災・復興の実践知—
二部:パネルディスカッション